

戦争、男女、貧困、都市、資源、倦怠、独立、愛憎、宗教、暴力、家族、支配、災害、言語、隷属、性、労働、犯罪、生死、欲望、テロ、病気、美醜、人権、暮らし、夢……文学は人間と世の中の変転を描きつづけている。国際ペンは互いに相争った第一次世界大戦後の反省から創設され、また日本ペンクラブは第二次大戦の破局へと向かう国際的孤立のなかで設立され、ともに深い失意を味わいながら、なお希望を語りつづけてきた。そして、2010年秋——日本ペンクラブは世界各地の作家、詩人、文学関係者など約250名を東京に招き、あらたな文学テーマへのチャレンジを呼びかける。



国際ペン東京大会2010 開催!

環境と文学

「いま、何を書くか」

人類は地球と自然の環境のもとで人とつながり、家族や地域を作り、社会と文化と世界を形成し、歴史を刻んできた。人間が生きる条件としての環境を、いま、世界各地の文学はどう描き、何を課題としているだろうか?

文学フォーラム | 9.23(木) — 9.25(土)

6作品一挙舞台化! / 作家、自作を語る

越境、女性、異文化、性、観念的なものへの違和。6人の作家がそれぞれに描いた作品世界を、みずから語る(一部交渉中)。名だたる読み手による朗読、気鋭のアーティストによる映像、多彩なミュージシャンによる生演奏で世界初のステージ化! 朝倉摂・北條孝が講堂空間を斬新な舞台へと作り替える。

開会式 | 9.26(日)

井上ひさし群読劇「水の手紙」 ノーベル賞作家講演も一般公開!

13:00 ~ 基調公演

国際ペン東京大会2010開会式は井上ひさし(日本ペンクラブ前会長)が書き残した60分間の群読劇「水の手紙」から始まる。世界各地の水危機への凝視から生まれた祈りのような舞台が幕を下ろすとき、私たちはこの地球を抱きしめているだろう。他に国際ペン会長挨拶、奄美高校生徒20人による竹太鼓演奏も。

15:35 ~ 基調講演

カナダを代表する女性作家マーガレット・アトウッド(『またの名をグレイス』『昏き目の暗殺者』ほか)、華人系作家として初のノーベル文学賞を受賞した高行健(『靈山』『ある男の聖書』ほか。パリ在住)が語る、われらの時代の環境と現実。

76th INTERNATIONAL
PEN The Environment
and Literature
"What can words do?"
CONGRESS
TOKYO 2010

主催: 社団法人 日本ペンクラブ 共催: 早稲田大学



早稲田大学 大隈講堂

東京・新宿区 地下鉄東西線早稲田駅下車3分

〈文学フォーラム〉と〈国際ペン東京大会2010開会式〉はともに入場無料ですが、プログラムごとに事前登録された方が優先です。登録希望者多数の場合は申込み順となります。定員に限りがありますので、確実にご入場いただくために、事前登録をおすすめいたします。登録の仕方およびプログラムの概要は、裏面をご覧ください。

国際ペン東京大会2010実行委員会 〒102-0026 東京都中央区日本橋兜町20-3 <http://www.japanpen.or.jp>
各種セミナー・映画上映・展示会等、多様なプログラムを展開! 詳細は上記のホームページに!

事前登録票

インターネット登録が便利です。「日本ペンクラブ」を検索し、該当項目から事前登録画面を開けます。

<http://www.japanpen.or.jp/convention2010/>

ファックスの場合は、以下のプログラムから登録ご希望のものを選び、右端の枠に「✓」印をし、末尾にお名前とご連絡先のFAX番号等をご記入の上、次の番号に送信してください。

FAX 03-3508-1710 FAXによる申込期限:9月15日(水)

会場
早稲田大学大隈講堂



①～⑧は朗読に引き続いて、作家本人によるスピーチがあります。 ※プログラムはいくつも登録できますが、確実にご来場いただけるもののみお申し込みください。

① 文学フォーラム開会式—阿刀田高「闇彦」新潮社

朗読 | ことばの社 元NHKキャスター 松平定知

9月23日(木) 祝日 13:00～15:00

人間にとっての最大の自然、それは死か。その受け入れ難さを、古今、人は物語に託し、語り継いできた。物語る人の宿命が交わる光景を現代に蘇らせる書き下ろし作品。脚本・演出＝吉岡忍、画・CG＝加藤純・四位雅文、作曲＝森ミドリ、横笛＝植松葉子、小鼓＝古賀裕己 前半の〈文学フォーラム開会式〉では環境をめぐる世界文学の新潮流を展望する。

② サラ・パレツキー「沈黙の時代のなかで書く」早川書房

朗読 | ことばの社 元NHKアナウンス室長 山根基世

9月23日(木) 祝日 16:00～17:30

人を、人種や性別という「檻」に囲い込む社会制度への反抗が米国の人気ミステリー作家を育て上げた。初めて語る生い立ちと、9.11以降の米国社会への違和感、そして、孤立を乗り越える人々への静かな共感。脚本・演出＝吉岡忍、画・ライブドローイング＝茂本ヒデキチ、作曲＝森ミドリ、パーカッション＝定成誠一郎・淡紅子

③ チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ

「なにかが首のまわりに」河出書房新社 朗読 | 俳優 松たか子

9月24日(金) 18:00～19:10

ナイジェリアから米国へ移り住んだ若い女性が感じる驚きと違和感と寂しさ。異文化同士の個人が理解し合うとはどういうことか。数々の文学賞を受賞し、いまもっとも注目される若手作家が〈アメリカの現実〉と〈アフリカの現在〉を繊細に捉えた意欲作。脚本＝くばたのぞみ、彫刻・CG＝中村圭、四位雅文、作曲・チェレスタ・ピアノ＝森ミドリ

④ 莫言(出演交渉中)「牛」岩波書店

朗読 | 講師 神田松鯉 踊り | 田中 浪

9月24日(金) 19:30～21:10

これ以上牛が増えたら、オレたちが食い詰めてしまう。窮状の村で、牛たちは次々に去勢された。14歳の少年と老人は炎天下、瀕死の仔牛を連れ、町までの辛い道をたどる。文革期中国の人々の疲弊と滑稽を描ききった異色作品。田中浪が仔牛の悲哀を踊る。脚本・演出＝吉岡忍、人形・画＝戸井紅子・有園絵夢・絵瑠、中国琵琶＝シャオロン

⑤ サルワ・アル・ネイミ「蜜の証拠」講談社

朗読 | 俳優 吉行和子

9月25日(土) 14:00～15:30

私はポルノ学者? アラブ性愛文学の古典と現実の男女関係が密通し、ひとつとなる。イスラム女性の隠された性を大胆に描いてセンセーションを巻き起こした作品。そこには肥大した観念世界に対する身体と自然からの痛烈な批判が込められている。脚本・演出＝吉岡忍、画・CG＝スズキコージ・四位雅文、ネイティブフルート＝真砂秀朗

⑥ マリーナ・レヴィツカ「おっぱいとトラクター」集英社

朗読 | 活動写真弁士 片岡一郎

9月25日(土) 16:15～17:45

84歳のお父さんの再婚相手はウクライナの36歳、超ボインのピンク爆弾だった。仲違っていた姉妹は家族を守ろうと共同戦線を張るが、世界の現実を容赦なく押し入ってくる。イギリスの家庭で繰り広げられる移民と強制収容所と農機具が織りなす悲喜劇とハッピーエンドの物語。脚本＝青木純子、画・CG＝里中満智子・四位雅文、ピアノ＝柳下美恵

⑦ 国際ペン東京大会2010 基調公演
井上ひさし作 群読劇「水の手紙」—開会式典

9月26日(日) 13:00～15:20

井上ひさし(日本ペンクラブ前会長)が世界中の〈水〉問題に託して書き残した人類へのメッセージ。「わたしは水です」という最後の台詞にたどり着いたとき、私たちは地球を抱きしめているだろう。息をもつかせぬ群読劇60分。演出監修＝栗山民也、演出＝杉山良 他に国際ペン会長など各界代表のスピーチと、奄美高校生徒20人による壮大な竹太鼓演奏。

⑧ 国際ペン東京大会2010 基調講演
マーガレット・アトウッド／高行健

9月26日(日) 15:35～17:10

カナダを代表する女性作家アトウッド、華人系作家として初めてノーベル文学賞を受賞した高行健。多文化主義へと雪崩を打つ現代世界のただなかで、果敢な創作活動を行なう2人が見据える地球環境と現実。文学は、そして、われわれはどこへ行くのか。同時通訳付き。

※ご友人・家族などと一緒にファックス登録される場合は、この面をコピーし、お一人ずつご登録ください。

フリガナ					
お名前	TEL	-	-	FAX	-

【個人情報保護について】本イベントについて、日本コンベンションサービス株式会社(JCS)が主催者より参加受付業務を委託されています。お預かりする個人情報は、当イベント運営に関する業務の目的で利用いたします。個人情報提供を主催者に提供する場合、旅行・宿泊取扱い業者に提供する場合、法令等に基づく場合などを除き、お預かりする個人情報を第三者に提供いたしません。また、個人情報を当社の業務委託先に委託する場合がありますが、この場合は委託先に対し適切な管理・監督を行います。JCSの個人情報保護方針については、以下をご参照ください。◆JCS個人情報保護方針→<http://www.convention.co.jp/privacy/index.html> または、http://www.jcs-pco.com/contact_privacy.html ◆個人情報保護に関する照会先→cpcs@convention.co.jp ※プログラム内容、出演者等は都合により変更になる場合があります